

# 令和2年度 第3回 会津若松市中小企業・小規模企業未来会議 要旨

日時：令和3年3月24日（水）15：00～17：00

場所：生涯学習総合センター 研修室5

1 開会（司会：観光商工部商工課 田沼）

2 協議

- ・青木准教授が座長となり進行
- ・未来会議と連携した葵ゼミの中間報告（別添）について、意見交換を行った。
- ・令和3年度の取組について、協議を行った。

（発言要旨）（※新型コロナウイルス感染症をコロナと表記）

## 【葵ゼミの中間報告について】

- ・アイデアを実現できるかというのは、大切な観点だが、そもそもアイデアが無ければ何の検討も始まらない。高校生という世の中に敏感な世代の知恵を借りることは、良いことだと思う。
- ・漆器について、漆を製品にするまでの工程や大変さなど、その価値と、会津における文化をまず知ってもらい、その先に漆器を販売する産業があると思う。入口の部分を変えて伝えるのはどうか。  
⇒漆かき体験や、さらにその前段の漆の樹を育てるための下草刈りなども行っているのだから、葵ゼミに情報を提供していく。
- ・漆には抗菌作用があると言われているが、コロナ禍だからと、その作用を活用できる方法を考えると、面白いのではないか。
- ・漆を遊具に使うアイデアがとても面白いと感じた。『漆を使った遊具がある公園』は、漆器の産地ならでし、人の興味もひくのではないか。
- ・葵ゼミとの連携の中にたくさんのヒントがあり、この連携から市ならではの取組が生まれる可能性があると感じる。
- ・葵ゼミのような地域課題を探求する授業について、他の市町村では商工会や役所がコーディネートをしたり、予算化したりし、密に連携している。今後、葵ゼミでも実際に現場に出ることにより、さらに考えが深まると思う。  
⇒事務局より、今後連携できる部分について、個別に相談していく。

## 【令和3年度の取組について】

①中小・小規模企業者経営者・従業員の勉強会・交流会の内容や講師案について

- ・株式会社スノーピーク 代表取締役社長 山井氏
  - ・・・燕三条という地域の資源を活かして事業展開をしており、目標となる話が聞けるのではないかと。また、テレビ番組からも取材を受けていることから、話を聞いてみたいという人が多いのではないかと。
- ・慶應義塾大学経済学部 植田教授
  - ・・・中小・小規模企業の振興条例について、数多く後援しており、条例に基づく活動事例や、活用する方法などを紹介してもらうことで、当該会議が取り組んでいくヒントを得ることができるのではないかと。

・異業種または同業種によるコラボレーション（※以下、コラボと表記）を行っている事業者による事例発表

- ・・・福島県パン協同組合で開発したパンを組合員の店舗で販売したという事例があった。業界内や、事業者同士がつながるきっかけづくりの場となると良いのではないか。
- ・・・コラボしたい事業者や、つながりを作りたい事業者を中心に参加してもらう交流会を実施するのも良いのではないか。

⇒事務局にて講師案を具体的に検討し、令和3年度の未来会議において提案し、協議していただく。

## ②コアメンバーについて

・各団体においても、会長や係の見直しがあったことから、令和3年度のメンバーについてどうしたら良いか迷っている。

⇒事務局としては、これまでの協議内容など、経過も重要であることから、できれば引き続きお願いしたい。しかしながら、団体内の考え方や、役割分担もあると思うので、変更ということでも差支えない。

⇒各団体内において協議いただき、令和3年度に改めて事務局確認のうえコアメンバーを決定する。

## 【直近の状況について】

- ・会津青年会議所では、令和3年度もなるべくイベント等を中止せず、実施していく方針で進めている。また、70周年を迎える年でもあるので、記念事業も予定しており、できる限り開催していきたい。
- ・福島県新型コロナウイルス対策特別資金（実質無利子型）の申込期限が迫っており、年度末にかけて申請者が増えてきた。当該融資制度により、現在のところ、事業者の手元には資金がある状況だが、今後、事業収入をいかに確保していくかがこれからの課題となると思う。令和3年度は伴走支援を行っていく予定である。
- ・あいづ商工会では、令和2年度のイベント等は全て中止とした。令和3年度は人数を制限しながら総会の開催、また、感染防止対策を徹底したうえで、ほたる祭等も開催していきたいと考えている。
- ・令和2年度は、情報を得ることの大切さを痛感した年だった。最新の情報はいずれもホームページ上で得ることができる場合が多いため、インターネットを活用できない人は、人づてに聞くしかないという声もあった。会津若松商工会議所では、会員へ郵送による案内をきめ細かく実施し、情報を取り漏れることが無いよう配慮してきた。情報を紙媒体により欲しい事業者など会員の増加にもつながる活動となった。
- ・令和3年度もプレミアム商品券事業を行っていく予定。
- ・会津短大においては、卒業生のみでの参加と人数制限はしたものの、卒業式を開催することができ、生徒にとって、良い思い出になったと感じる。また、就職活動においては、オンラインで実施できる企業に応募しやすいようである。

令和2年度  
会津若松市中小企業・小規模企業未来会議 コアメンバー

令和3年3月現在

所属・企業名	役職	氏名（敬称略）	備考	第3回 出欠
会津大学短期大学部 産業情報学科	准教授	青木 孝弘		出
松浦商事 株式会社	代表取締役社長	松浦 健典	会津若松商工会議所 推薦	欠
株式会社 三義漆器店	代表取締役	曾根 佳弘	県中小企業家同友会 会津地区 推薦	出
		星 文隆	県中小企業家同友会 会津地区 副会長	出
TAKLAM	代表	遠藤 和輝	公益財団法人 会津青年会議所 推薦	欠
		林 陵平	公益財団法人 会津青年会議 副理事長	出
会津若松商工会議所	企業振興課 課長補佐	築取 幸弘		出
あいづ商工会	事務局長	福島 正博		出
福島県中小企業団体中央会 会津事務所	所長	堀 和弘		欠
会津信用金庫	本店営業部長	渡部 勝敏		出
会津商工信用組合	融資部・地域支援課 次長	藤巻 正義		欠
会津若松市観光商工部商工課	課長	長谷川 陽一		出